

令和3年度 府立丹後緑風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創り出す」人材を育成する。</p> <p><教育目標></p> <p>1 丹後地域の自然・歴史財産を活用した新しい時代に求められる探究心の育成</p> <p>2 丹後とグローバル社会を結ぶ若者力の育成</p> <p>3 丹後地域での新しい農業と食を創造できる人材の育成</p> <p>4 福祉マインドの育成</p> <p><育てる生徒像></p> <p>■ 豊かな人間性と社会人基礎力を身に付け、自ら学ぶ生徒</p> <p>■ 丹後を愛し、丹後地域の発展に貢献しようとする生徒</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 研究発表会「寄せN.A.B.E.」で探究活動の成果を発表したことにより、生徒の自信につながった。</p> <p>(2) 農業科目、ライフスキルにおいて、地域連携の取組を進め、多くの地域の社会人を講師に招くなど、教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>(3) 7月に開設したアグリサイエンス科食品製造実習施設「海部Kitchen」を活用した実習に取り組むなど、本格活用に向けて準備を進めた。</p> <p>(4) 遠隔教育システムを活用した網野学舎との遠隔授業の研修を計画的に進めることができた。</p> <p>(5) 各教職員の日常的な指導により挨拶や身だしなみ等、校内外での生徒の様子が改善した。</p> <p>(6) オリンピック・パラリンピック教育推進事業において、部活動生徒を中心に自己有用感を高める取組を進めることができた。</p> <p>(7) 学校だよりを計画的に発行し、本校の取組を広く発信することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 家庭学習習慣の定着や基礎学力の着実な向上に課題がある。教員が目標を共有し、主体的な学習につながる取組を進める必要がある。</p> <p>(2) 進路についての意識の高まりが弱い。取組内容や時期等、キャリア教育の改善が必要である。</p> <p>(3) 広報の取組を行っているにも関わらず学校の様子が保護者に十分に伝わっていないことから、方法等について検討する必要がある。</p>	<p>1 論理的な思考力・主体的に学びに向かう姿勢・伝わる表現力の育成</p> <p>(1) 地域創生・地域貢献を軸とした「総合的な探究の時間」及び「課題研究」に取り組む。</p> <p>(2) ICT機器利活用・探究的指導により授業改善を進める。</p> <p>(3) 個々の課題に応じた指導を充実させるとともに、基礎学力を向上させる。</p> <p>2 自己有用感の醸成</p> <p>(1) 規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 部活動やボランティア活動等への積極的な参加を促し、充実感や向上心に繋がる指導を行う。</p> <p>(3) 地域や網野学舎と連携した教育活動を進める。</p> <p>3 学舎間連携の推進</p> <p>(1) 効果的な遠隔授業の実施・研究を進める。</p> <p>(2) 農商連携を計画的に進める。</p> <p>4 生徒募集に繋がる広報活動の充実</p> <p>(1) 生徒募集活動を計画的に進める。</p> <p>(2) 保護者への丁寧な情報提供を実施する。</p>

(注) 具体的方策についての目標は【 】内に記載。なお、久は久美浜高校、緑は丹後緑風高校久美浜学舎、久・緑は両校を対象とした目標。

A : 3.3~4.0 B : 2.5~3.2 C : 1.7~2.4 D : 1.0~1.6

評価領域	重点目標 (取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域をはじめ、中学生とその保護者、中学校教員等に対して、適切な時期に効果的な広報活動を実施する。 【学校だより：組織的計画的発行、HP：日々更新 久・緑】 【生徒募集：志願者の増加 緑】 	A	<p>学校だよりにより、学校の特色をバランスよく発信した。HPも刷新し改善中である。</p> <p>校内の環境整備、破損箇所の修理を適宜行った。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策物品等の購入、iPad等デジタル機器・教材等の購入を行った。引き続き環境整備に努める。</p> <p>職員会議のペーパーレス化は実現できた。Teamsも活用できている。業務の見直しはさらに抜本的な対策が必要である。</p>
	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。 校内の整理整頓により、快適な教育環境の整備を図る。 光熱水費の節減により、学校運営費の予算を確保する。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度75%以上 久・緑】 	A	
	教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 会議のペーパーレス化の推進。 各分掌において業務の必要性を見直す。 分掌ごとに毎月1回「はよ帰ろうデー」を実施する。 【各分掌での業務見直し、「はよ帰ろうデー」の実施 久・緑】 	B	
家庭・地域との連携	保護者への情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> HPをこまめに更新するとともに、一斉配信システムを活用して保護者の教育活動への理解を進める。 【学校評価アンケート：「学校の様子が分かる」の肯定的評価80%以上 久・緑】 	B	<p>HPでの案内はできたが、一斉配信システムは準備できなかった。配布物が確実に届くためにも今後も検討が必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の中、実施した行事には多くの保護者の参加があった。</p> <p>また、地域連携による教育活動にも制限があったが、可能な限り効果的な教育活動を進めることができた。</p>
	P T A活動への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の参加を促す行事を計画するとともに、確実な案内を行う。 【いか〜で久美高の対象保護者30名 久・緑】 	B	
	地域連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域との連携による活動を進める。 【年間30回以上 久・緑】 【生徒全員による1回以上の地域連携の取組参加 緑】 	B	
学習指導	授業規律の確立 「時を守り、場を清め、礼を正す」	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に育てるために、授業規律と教室内の整理整頓の指導を徹底する。 【「授業規律カード」による指導複数回生徒0人 久・緑】 	B	<p>「授業規律カード」による指導生徒が年間で2名いたが、『授業における申し合わせ事項』による統一した指導が各教科担当者でなされ、比較的落ち着いた雰囲気です授業が行われた。特に、担任を中心にHR教室の整理整頓や美化が徹底され、気持ちよく翌日の朝を迎えられる環境が年間を通し確立した。</p> <p>また2回実施した授業評価アンケートでは「自分自身の学力の伸び」の実感を意識する生徒が講義形式・実技形式の授業ともに上昇した。加えてICT機器の有効活用によって、授業での提示資料のわかりやす</p>
	基礎学力の定着と「はぐくみたい3つの力」の育成 (教員の教科指導力向上)	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者へきめ細かくていねいな指導をおこない、学年末に不認定科目がある生徒の大幅な減少を目指す。 【学年末で不認定科目がある生徒の割合10%以下 久・緑】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 各教科・科目の目標（年間指導計画）を意識し、授業アンケート等による振り返り、ICT機器や様々な教材・教具の活用、探究活動の手法の導入等により授業改善を進める。 【授業アンケートでの「力の伸び実感」回答平均3.5以上（4段階評価） 久・緑】 【公開授業・研究授業参観：教員1人年間2回以上 久・緑】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 「みらい探究」や「課題研究」、「総合的な探究の時間」の他、 	B	

		各教科で探究的な活動を計画的に実施する。 ・学校図書館及び新聞を積極的に活用する。 【全生徒による学年発表会での発表 <u>欠・緑</u> 】 【校内発表会事後アンケートでの「はぐくみたい3つの力」の向上について肯定的回答80%以上 <u>欠・緑</u> 】	B		さを高く評価する生徒が急増した。これらの生徒の生の声を大切にしながら今後の授業改善に学校全体で取り組んでいきたい。 京都府学校農業クラブ連盟大会意見発表の部にアグリサイエンス科の生徒3名が出場し、1名が優秀賞を受賞した。農業鑑定競技では、2名が全国大会に出場し、1名が優秀賞を受賞した。毎日新聞社主催第49回毎日農業記録賞において1名が奨励賞を受賞するなど、活動が活性化している。
	農業教育に関する意欲や知識・技能の育成	・基礎的な専門知識や技術の習得を図るとともに、農業関連資格の取得を目指す。 ・学校農業クラブ活動の活性化を図り、各種競技会・講習会に積極的に参加する。 【関連資格取得生徒数のべ40名以上・農業クラブ各種競技会入賞3名以上】 <u>欠・緑</u> 】	A		
生徒指導	生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境の構築	・基本的人権を侵害する行為に対して、全教職員が毅然とした態度で指導する。 ・日常の生徒観察を徹底し、毎週一回アンケート調査を行い、問題の早期発見、早期解決に努める。 【学校評価アンケートでの学校生活への安心度80%以上】 <u>欠・緑</u> 】	A	A	毎週のアンケート調査並びに京都府教育委員会いじめ調査においても重大ないじめ事象に該当する回答はなかった。アンケート調査での安心度は80%以上であった。 また、毎朝多くの教員が各所で立ち番を行い、明るいあいさつで生徒を温かく迎え入れていることも校内での問題行動減少に繋がっている。 部活動については、小規模校ながら上位の大会に多く出場し、継続率は80%以上であった。新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動、学校行事は制限されたものの参加した生徒の満足度はほぼ100%であった。
	自立・自律した生活習慣の確立	・朝の立ち番での指導等を通じて、さわやかな身だしなみ、あいさつ、丁寧な言葉遣いを身につけさせる。	A		
	生徒の主体的な取組の促進と生徒の自己有用感の醸成	・毎学期GOOD CARD旬間を設定し、積極的に生徒を承認する。 ・部活動やボランティア活動への積極的な参加を促す。 ・学校行事において生徒の主体的な取組を進め、成功体験を積ませることにより自己有用感や満足度を高める。 【部活動継続率80%以上 <u>欠・緑</u> 】 【ボランティア活動参加への満足度85%以上 <u>欠・緑</u> 】 【学校行事への満足度85%以上 <u>欠・緑</u> 】	A		
進路指導	進路意識の高揚と進路実現に向けて主体的に取り組む姿勢の育成	・個人面談等を充実させ、自己理解の深化と進路意識の高揚を図る。 【2年生との全員面談の実施 <u>緑</u> 】 【2年生年度末進路希望調査における未定生徒10%以下 <u>緑</u> 】 【学校評価アンケートでの進路指導に対する満足度80%以上 <u>欠・緑</u> 】	B	B	2年生への全員面談を調べ学習が終わる2月下旬から実施し、希望進路未定の生徒を把握した。その結果を3年次当初の適切な指導へと繋げていく。学校評価アンケートでの進路指導に対する生徒満足度で肯定評価80%以上であった。
		・模擬試験の事前事後指導を充実し、結果の分析や個別面談を行うなど、きめ細かな指導を行う。 ・放課後講習や土曜講習（3SP）、教科実習等で、希望進路実現に向けて、情報提供とともに専門知識や技術を習得できるように、関係教員が連携し適切な指導を行う。 【進学講習、3SPの出席率80%以上 <u>緑</u> 】	B		1年生の放課後講習は実施できなかったが、夏季と冬季講習は実施できた。2年生は放課後講習も夏季と冬季講習も実施できた。土曜講習（3SP）は1・2年生とも実施できなかった。実施した進学講習のうち、1年生夏季講習の英語、数学、国語の3講座の出席率は80%以下であったが、1・2年生のその他の延べ11講座の出席率は80%以上であった。

		・3年間を見据えた指導計画に基づき、関係各部の連携により、キャリア教育の充実を図る。		B	新型コロナウイルスの感染拡大による休業により、キャリア教育の計画を一部変更せざるを得なかった。1年生「ライフスキル」の授業も計画を一部変更して実施した。1年生は10月に職業ガイダンスを行った。2年生は2月に進路調べ学習と分野別説明会を行った。
健康安全 指 導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	・保健室から健康情報を発信し、自ら健康管理できる生徒を育成する。(保健だより、HPでの保健情報) ・食育キャンペーンを実施し、朝食を摂る習慣や食品の成分を考えて食事を選択できる力を身に付けさせる。 【生活習慣・朝食アンケートでのポイント改善 灰・緑】	A	A	A
		・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、美化・掃除活動の指導を行う。 【清掃の取組アンケートで積極的参加が80%以上 灰・緑】	A		
		・授業や体育行事での事故防止を図るとともに、安全教育を行い、大きな怪我や事故を防ぐ力を身に付けさせる。 【実習中の事故・怪我ゼロ 灰・緑】	A		
教育相談・特別支援の必要な生徒への組織的な指導体制構築と指導力の向上	・生徒の状況について、教員間の情報交換の機会を増やし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談・特別支援を進める。 ・特別支援の校内研修を実施する。	A			
人権教育	人権教育の構築	・教職員対象に人権に関する研修会を実施し、高い人権感覚・人権意識を養う。		B	B
	生徒の人権意識の向上	・いじめに関する人権学習を実施し、いじめを許さない雰囲気づくりをする。 ・生徒が互いに尊重し合える関係を育成・向上するために、LHRや学校行事を通して、計画的な指導を行う。		B	

学校関係者 評価委員会 による評価	各領域において、目標に向けて着実に取組が進められている。広報活動は分かりやすい記事作りやタイムリーな情報発信がなされている。久美浜高校の特色である少人数講座によるきめ細かい学習指導や、一人一人に寄り添った粘り強い生徒指導により、生徒は充実した高校生活を送るとともに、様々な面で自信をつけたり、学力を徐々に向上させたりおり、こうした本校の良さが丹後緑風高校に引き継がれることに期待したい。
-------------------------	---

次年度に向けた改善の 方 向 性	令和4年度はいよいよ丹後緑風高校久美浜学舎として3学年が揃うこととなる。久美浜高校総合学科において成果を上げてきた「久美高研究発表会『寄せN.A.B.E.』」に代表される特色ある教育活動を引継ぎ、ブラッシュアップするとともに、地域人材や関係機関との連携を軸に、地域を舞台とした学びを展開するなど、「はぐくみたい3つの力」の更なる育成を目指して教育活動を充実させていく。
---------------------	--